火焔太鼓　感想

　　　　　　　　　　　　　　　　s14778mm 松本倫明

<https://www.youtube.com/watch?v=sqwQFKZCrMI>

大金を前にした人間の反応

『火焔太鼓』は商売がうまくいかない道具屋が思いもよらない大金を得て、慌てふためく様子が面白い落語である。

今まで見たこともない大金を目にして大いに盛り上がる様子は子供の成績に喜ぶ保護者に通じる所がある。私は中学３年生になってから自分でもびっくりするくらい成績が伸び始めた。私の成績を見た祖母は「ひえー」と叫んで大喜びであった。大金にせよ成績にせよ、予想もしなかったような結果がやってくると嬉しさというか困惑というかで大はしゃぎしてしまうのは、人間の性であろう。オーバーともいえる祖母のリアクションを何度も見たことのある自分にとっては『火焔太鼓』の中の登場人物(特に嫁さん)の慌てようがデジャヴで容易に想像できて大変、面白かった。

落ち——半鐘ではおじゃんになる

太鼓という鳴り物で大儲けしたために今度は半鐘で儲けてやろうと考えるが、半鐘とは家事の最後にならされるものであるため、商売が終わってしまいかねない。なんとも難しい落ちである。

一方で太鼓なだけにドンドン儲かるという落ちもあるようだ。こちらの方が断然解り易いし、一攫千金した後に調子に乗っている様子も想像し易い。

古典落語の体裁もいいが、時代に合わせて観客に合わせて常に変化していってほしい。